

昭48-11217

実用新案公報

⑬公告 昭和48年(1973) 3月26日

(全2頁)

1

⑭ガラス繊維強化プラスチックパネルの接合構
体

- ⑮実 願 昭44-52086
⑯出 願 昭44(1969)6月5日
⑰考 案 者 村山徹
川口市領家町5000の2東京芝
浦電気株式会社川口工場内
⑱出 願 人 東京芝浦電気株式会社
川崎市幸区堀川町72
⑲代 理 人 弁理士 鈴江武彦 外4名

図面の簡単な説明

第1図はガラス繊維強化プラスチックパネル
接合構体で構成したプレハブ式建造物の一例を示
す正面図、第2図は従来のガラス繊維強化プラ
スチックパネルの接合構体を示す断面図、第3図
は本考案の一実施例の接合構体を示す断面図、第
4図は同正面図、第5図は接合部の拡大断面図で
ある。

考案の詳細な説明

本考案はプレハブ式の建造物の外壁などとして
用いるガラス繊維強化プラスチックパネルの接
合構体に関する。

例えば第1図に示すようなドーム型のプレハブ
式建造物を、ガラス繊維強化プラスチックパネ
ルによつて建造する場合、従来は第2図に示す
ようにパネル1の端縁にフランジ2を形成して、隣
接するパネル1のフランジ2を互に接合固定して
いる。しかし外観上接合部を外面に出したくない
ので、内面にフランジを形成する場合が多いが、
このようにすると、フランジ部の形成が困難とな
り、パネルを形成する型を割り型にしたり、フラ
ンジとパネルとを別個に成型し、これらを接着す
ることが必要となり、フランジの付け根部分は応
力が集中するために補強が必要となつてコスト高
になる。また剛体同志の接合であるため、パネル
間隔の調整が困難で、雨水などが接合部から侵入

2

するおそれがある。

本考案は樋の底部の外側面に沿つてひれ状部を
突出させた特殊な構成の弾性材質からなる継手
を用いてパネルを連結することにより、前述した欠
点を除去したパネル接合構体を提供しようとする
ものである。

次に本考案の一実施例につき第3図以下の図面
を参照して詳述する。第3図以下の図面中11は
弾性材質からなる継手で、半円弧状の溝12を有
する樋13の底部を横方向に延長して一對のひれ
状部14を形成し、これらの外面には剛性材質板
15が裏打ちされ、ひれ状部14及び剛性材質板
15を貫通させてボルト16を穿設する。また
第3図以下の図中17はガラス繊維強化プラ
スチックパネルで、その端縁部には複数のめねじ
インサート18が埋設されて一体に成型してある
そして前記パネル17の端縁部を前記樋13の外
側面に沿つて密着当接し、前記めねじインサート
18にボルト16を貫通させたボルト19を締
付けて隣接するパネル17を継手を介して接合す
るものである。

従つて継手が弾性材質からなる上に樋状に形成
されているので、パネルと継手との間に隙間がで
き難く、雨水などは樋の溝を流下することと相ま
つて雨水などが侵入し難く、とくに第1図に示す
ドーム型建造物のように曲面状にパネルを接合す
る場合に有効である。とくに前記樋の溝の深さを
深くしパネルの厚さに等しいかそれ以上にすれば
パネル間隔の調整がこの部分の変形によつて容易
に行うことができる。パネルはフランジを形成す
ることなく平板状のものでよいから廉価に提供で
きる効果がある。

なお本考案において、上下左右にパネルを連結
する場合には第4図に示すように樋の溝が上下左
右に連結するように溝の両側方に突出した部分を
切除すると、漏水防止が一層良好になされる。ま
た本考案の継手に用いる弾性材質としては、天然
ゴム、シリコンゴム、弗素ゴムなどのゴムやエチ

3

レンビニールアセテート、アイオノマー等のエラストマーを挙げることができる。

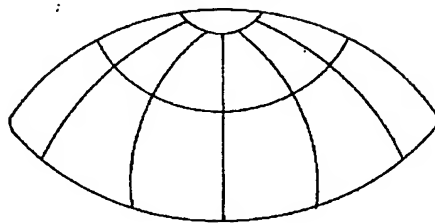
⑦実用新案登録請求の範囲

弾性材質からなる樋の底部を横方向に延長付設した一対のひれ状部の外面にそれぞれ剛性材質の板を裏打ちして継手を形成し、継手の樋の外側面

4

に沿つてガラス繊維強化プラスチックパネルの端縁を密着当接し、パネルの端縁に埋設した複数のめねじインサートと継手の剛性材質板を含めてひれ状部に穿つた複数のボルト孔にボルトを挿通螺合して締付けてなることを特徴とするガラス繊維強化プラスチックパネルの接合構体。

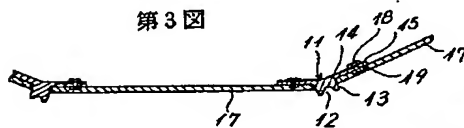
第1図



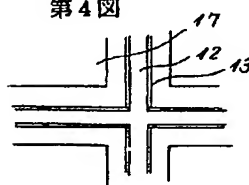
第2図



第3図



第4図



第5図

